

賛美する

三 好 三恵子

奨励者紹介〔みよし・みえこ〕

元同志社女子中学校・高等学校音楽科教諭

同志社同窓会評議員

同志社評議員

詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。そして、いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい。

(エフェソの信徒への手紙 5章19—20節)

私は牧師の家庭に生まれたので、物心が付いた頃からいつも教会で讃美歌が聞こえているという環境に育ちました。

また、中高時代から大学まで同志社女子部で過ごし、その後も43年間母校で音楽教師として勤めてきたので合計55年間も同志社に関わらせていただいたことになります。その間、讃美歌礼拝の時間には、礼拝の中で次週以後歌う讃美歌の練習をしたり、授業時に礼拝で歌う讃美歌の練習をしたりと、朝の礼拝から終礼まで、一日中讃美歌と共に過ごしました。ですから私にとっての讃美歌は、私自身であると自負しています。

賛美とは

さて、今日は「賛美する」と題して皆様と共に賛美することについて考え、共に讃美歌を歌いたいと思います。

皆さんは、礼拝ではまず神に願い事をするのではなく、神を賛美することだをご存知でしょうか。

賛美という言葉は旧約聖書の時代からすでに多く書かれています。

紀元前400年頃、バビロン捕囚後イスラエルの二代目の王となったダビデらによって書かれた神への賛美の歌である詩編や、創世記4章21節に、竖琴や笛を奏でる者すべての先祖であるユバルが楽器によって賛美したという記述が出てきます。また、歴代誌下5章12、13節では、主を褒め称えるという役割をになった一族のレビ人が、大人数でラッパやシンバル、竖琴や琴と歌によって賛美したという記述も残されています。先ほどのダビデ王は竖琴の名手であり、それらの楽器に合わせて踊りながら賛美したとも書かれています。このように旧約の時代には楽器を伴う歌や踊りによって神への賛美が行われていたことがわかります。

長い歴史の中で一時期、楽器や踊りとともに賛美するという形が途絶えてしまいました。そして、中世の時代には特定の訓練された修道士や司祭だけが聖歌をラテン語で歌い、会衆はそれを聴くだけになっていました。

ところがマルチン・ルターの宗教改革（今年は宗教改革から500周年）によって、それまでは聞くだけだ

った会衆がみんなで自分の国の言葉で賛美することができるようになりました。ルター自身、素晴らしい美声の持ち主であり、リュートという弦楽器を弾きながら家々を歌って回ったという記述が残されています。また、彼が書き残した讃美歌は今日でも歌われ続けています。その旋律は、当時の民謡など人々に馴染みがあり、聞き覚えがありわかりやすく歌いやすかったのも、人々に受け入れられたのでしょう。

賛美を通して

ところで讃美歌は、誰に向かって賛美するのかというと、神に向かって賛美するのです。神様は私たち人間に、計り知れない大きな愛をくださっているのです、その愛に応え感謝の心を表すために賛美するのです。すなわち、人から神様に捧げられる最高の捧げものが讃美歌だと思います。

神様に愛されている者として、生きている限り賛美したいと心から願って歌う時、自然に喜びの歌声が沸き上がってくるものだと思います。

私たちは不思議な神様のお導きによって今、同志社に学んでいます。もし、同志社に入学しなかったら経験できなかった礼拝、その中で読まれる聖書の御言葉、そして讃美歌。

それらについて、今はわからなくても卒業後、何十年も経って人生の中で岐路に立った時や大きな試練にあった時などに、きっとその意味がわかってくることでしょう。そして、ともに歌った讃美歌が頭の中によぎり、思わず口ずさむことになるかもしれません。

ですから、学生時代にできるだけたくさんの讃美歌に出会い、愛唱歌を作ってください。

今日はこれから数曲の讃美歌を紹介して、ともに歌いたいと思います。

62番 「主の祈り」

マタイによる福音書6章9節以下にあるように、イエスが「祈るときはこう祈りなさい」と教えてくださった祈りです。まず、共に歌詞を声に出して読みましょう。

この旋律は、西インド諸島のカリプソのものです。讃美歌といっても、このようにシンコペーションのリズムカルなリズムで、先唱者と全員が交互に歌う、交唱の形になっています。

421番 「ウリエイウツソン」

韓国の牧師が作詞・作曲なさったものです。讃美歌の中で唯一、韓国語と日本語、両方の歌詞で書かれています。日本語の歌詞を読みましょう。世界は一つなので、人種、民族、肌の色の違いに関係なくみんな、神によって創られたものであると知らされます。人間は、自分で親を選んで生まれることもできないし、裕福な家庭を選んで生まれることもできません。ただ、今自分が置かれている立場の中で、隣人に何ができるのかを考えると、また行動することの大切さを教えられる讃美歌です。

425番 「こすずめも、くじらも」

歌詞をともに読みましょう。世界平和、神が創造された世界を歌っています。空間にその情景を描くように歌うことで、ともすれば傲慢になりがちな人間であることに気づかされます。美しい世界を与え私たちを愛してくださる神に感謝の心を忘れないように、神の存在を忘れないようにと思いながら歌いましょう。

ところで、新島先生は讃美歌を歌うのが苦手だったようです。なぜなら鎖国していた江戸時代は、五音音階でできた音楽しかなく、アメリカに渡って聴いた七音音階の讃美歌は全く耳慣れなかったためだと思われる。

528番 「あなたの道を」

歌詞を声に出して読みましょう。

讃美歌は言葉の意味を知って歌うことが大事です。ただ字面だけを見て歌うのでは、その奥にある深いものに気づけないと思います。

どうぞあなたの将来進むべき道を神様にお任せしてください。どんな思い煩いも神様に委ねて生きれば、必ず神様があなたと共に歩いていてくださいます。そのことを確信し、神様を信頼して、いついかなる時も自分らしく賛美を忘れず、日々力強く歩んでください。

2017年7月12日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録